

S.G. Report

『Super Global Session from Seiseiko 2018』

- 日時 : 平成30年12月14日(金) 12:45~16:10
- 場所 : 熊本県立済々黉高等学校体育館
- 参加者 : ア 1・2年生全生徒
 イ 運営指導委員・評価助言委員・県教育委員会・学校評議員・同窓会
 ウ 県下の中学・高校・大学
 エ 一般の参加者(県外のSGH関係者)
 オ 保護者の参観希望者

第1部: SGH 活動発表 13:05~14:00 (55)

即興型英語ディベートデモンストレーション

2年生8名でそれぞれ肯定側、否定側のグループをつくり、即興型英語ディベートのデモンストレーションを行った。また今回はディベートの説明や各ディベーターの発言後の解説だけでなく、ジャッジも2年生の生徒がおこなった。

論題

『English Classes for high school students should be taught all in English.』(高校英語の授業はすべて英語にて教えられるべきだ)

この即興型英語ディベートは『いかにジャッジを納得させるか』というのが最大のポイントであり、ディベートの最後にはヒューマン・プレーンの講師より Skype 上で講評をいただいた。ジャッジ2名は POI を封じて具体例がよく述べられていた点を挙げ、肯定側にポイントを与えた。



《課題研究テーマ》

① The Concept of "Blank".

1年代表 本田雅 『間について』

芸術と「間」を関連付けてまとめ、「間」は人と人が話す際にも有用であるとの内容。「間」を生活の中で意識してみませんか? と英語で発表した。



② What Regional Revitalization Brings.

2年代表 一森聖史 『地方創生がもたらすもの』

日本全体の経済の発展には地方経済の発展が必要、企業の地方移転には問題が多いが、U ターン者の起業が効果的で、地方創生を促進していかなければならないとスライドを使用し力強い個人発表であった。



第2部: SG ポスターセッション 14:15~15:30 (75)

2年生31名、1年代表2名、3年代表5名が個人で1枚にまとめたポスターを用いて参加型ポスターセッションをおこなった。資料説明にスケッチブックを利用するなど工夫も見られた。時間を区切り移動を促しつつのポスターセッションであったが、中には質疑応答で時間が足りないところもあり、とても活発で充実した時間であった。また、発表生徒たちは参加者から直接質問を受けたり、反応を直に見たりすることができ、よい刺激を受けているようだった。



第3部: 海外研修報告 15:45~15:55 (10)

海外研修報告

8月1日から8月8日 オーストラリア(パース)

2年生のSGコース在籍の15名の生徒が環境先進国であるオーストラリアへ行き、環境関連施設の視察や大学訪問、姉妹校との交流などをおこない、その報告をした。

生徒たちは事前の準備や事後の振り返り等をおして、自国の文化や歴史について見つめなおすと共に、この研修で得た知識や情報をそれぞれの課題研究への深化へとつなげることができた。



講評 15:55~16:10

公益社団法人日本生活国際生活体験協会 理事長鈴木 義弘様より講評を頂いた。昨年は比較的熊本に関わるトピックの研究が多かったが、今回は1人1人の個性がものすごく光った、自分の好きな事を勉強している印象で、素晴らしいプレゼンテーションを聞いてうれしいと述べられた。グローバルリーダーについて、「シンク・ローカリー、アクト・グローバルリー」を用いて、いかに自分の国や地元を良い地域にしていけるか、必ずしも外に出てリーダーにならなくてよい日頃の生活の中で触れる機会がふえる、高校での学びは必ず生きる上で大切に進んで欲しいと発表会の成功にお祝いの言葉をいただいた。



クロージング 16:10



平成30年度成果発表会アンケート（抜粋）

【小・中・高・大学職員・教育委員会・保護者】

●今年で指定は終わりますが、できることは残して継続することが大切だと思います。高いポテンシャルの生徒たちの思いに応えるための環境作りや、しかけは残して下さい。地の利を生かして熊本大学をどんどん利用してください。

●5年の年月の大きさを感じました。SGクラスだけでなく全体に波及させられたら先生方の努力に脱帽しました。

●初めて参加しましたが、皆が当事者として参加している様子が見てとれて、とても良かったです。先生方が御苦労されて取り組まれた成果が上がってきて可能性を感じた発表会でした。

●SGHの指定期間が終了するようですが、本日このような素晴らしい成果を見せていただき、続けられることはぜひ続けて頂きたいと思いました。どの発表もみなさん堂々としていて、頼もしい限りです。これからの国際社会でのご活躍を期待しています。（英語で自分の意志を伝えられることに感動しました！）このような取り組みの教育を受けることができ、本当に今の子どもたちは恵まれていますね。感謝申し上げます。

●ディバートの反論、論点の捉え方、巧みで審査もすばらしかったです。一森さんの発表もとても上手でした。ポスターは内容が多彩でよかったです。

●5年間の積み上げと変遷を感じる事ができました。英語表現力の高さ（TEDトークのようなパフォーマンス力）もあり、育てたい力が確実に身につけているように思います。本発表会の準備も大変だったと思います。

●済々夔でSGがスタートしたとき、英語ディバートをする生徒のニュースを新聞で読み、すごいなと感心しました。その後娘が入学し、SGで学ぶ中であの新聞記事と同じことをしていることに感動しています。先生方のご指導のおかげだと思います。ありがとうございます。娘にとってSGは最高の学び場でした。SGクラスはなくなるようですが、今後もこのような学びが継続されることを期待します。

●研究開発の構想や貴校がとらえる国際的素養に基づいて十二分に生徒の力が伸びていると感じました。この手法や成果が全国各地、各高校で共有されることを願います。

中学校の英語教員としては、中学校でよりクリアーな発音や自然なイントネーションについてしっかり指導をしていく必要を感じました。また語学以外の国際教育の視点もきちんと指導の中に位置づける必要性を感じました。

●どの発表も高校生らしく堂々としていて立派でした。時代に合った教育がすすめられていることに感銘を受けました。発音もきれいです。大変わかりやすく興味深く学べました。

●ディバートはストーリーがよく練られてた。ユーモアも含め面白かった。一森君のプレゼン力が高くて驚いた。よく調べていました。

●ディバートについてとても興味深いテーマでした。2学年の平均的な生徒の発信力だとすれば素晴らしいと思います。この論点の中でフォーカスされていたように、英語力向上の手段として「ディバート」も生徒の習熟度によってその質やレベルが準備されて機能するのかなと思いました。

●自分で考えたことを人に伝えるという学習の大切さを感じました。日頃の授業参観等では見たことのない活気ある発表会でとてもよかったです。

▲総評の頃は生徒さんは疲れたのでしょうか？寝ている方がだいぶおられましたね。

▲During parliamentary debate feedback, because of the internet Connection, facetime or Skype should not be used. Only voice-chat would have been better.



【生徒感想】

●今年は1年生全員SGコースで今までやってきたけれど、どのようにすればよいか分からなかった。今日のポスターセッションを聞いて少し理解することができた。

●ディバートがおもしろかったです。肯定側の主張の英語は聞き取りやすかったし、理解しやすかったので英語が苦手な私からしてみればうれしかったです。反論側の時間は大丈夫かなと心配しましたが、早口でも分かりやすかったです。初めてPOIの制度を使っている場面を見ましたが、受ける側は緊張するだろうと考えながらも内心どうなるのだろう？と楽しみにになりました。

「No thank you」かっこよかったです。

●同級生がこのような活動をしているのはとても刺激になりました。私も様々な探究活動をしてきたくなりました。

●1年間を通しての先輩方の頑張りが分かった。海外研修の楽しさも伝わってきて興味が出てきた。

●画期的だった。

●英語のディバートではとてもハイレベルな英語が聞けてよかったです。肯定側の意見を聞いていると、英語の授業がおもしろそうだと感じた。

●SG Research Projectは堂々と英語で発表してかっこいいなと思った。特に一森くんは自治体などを訪ねたり、実行力が素晴らしいと感じた。こんなに頑張ってる同級生を見習いたい。

●即興型ディバートが身近な問題を取り上げていて面白かった。研究はどれも個性あふれていて、飽きなかった。

●直前にもらったテーマとは思えない討論で驚いた。両サイドとも積極的に質問していて、見るだけでもとても楽しかった。SG Research Projectのテーマが面白く、聞き取れない部分もあったが英語を聞くのが楽しかった。

●英語で自分の意見を堂々と発表していて、即興で討論の内容もすごいなと思った。他のステージ発表の内容もすごくて、考えさせられるものも多かったし、皆、英語が上手で私もきれいな発音で英語を話せるように頑張りたい。

●済々夔で実際にこんなにもSGHの取り組みが進んでいることに驚きました。

●研究テーマ設定からすごいと感じて、詳しく調べてあり、全部とても良いプレゼンでした。

●全体を通してほとんどが英語で行われていて、とても貴重で有意義な時間になった。また、同級生の英語力、思考力などを直に感じる事ができ、SGの人が経験したことをこの機会に知ることができてよかったと思う。

●私は1年の時にSGコースに所属していたが、皆その時よりも自分たちそれぞれの研究を深めていて、また英語のスキルもすごく上がっていて驚いた。オーストラリア研修の発表では異文化との違いなどを肌で感じたということを発表していて少しSGをやめたことを後悔した。SGの皆から刺激を受けることができ良かった。

●ディバートで英語の発音やイントネーションがとてもなめらかで、すごいと感じた。内容もたくさん具体例が示されていたし、何度も意見を主張することで伝えたいことが強く伝わりました。私も英語表現活動でディバートをする時、今日感じたことを活用していきたいです。

●今までの発表会よりもはるかに面白かった。

●たくさんの経験をし、今日のような素晴らしい発表まで仕上げることは、簡単なことではないと思う。僕も1つの課題を見つけ、今日のような発表ができるような経験をたくさんしたいと思った。

●それぞれのテーマにそって理由や具体例など用いてとても分かりやすかった。聞いている人が興味を持つように工夫されていて、ジェスチャーを使ったり、抑揚をつけたり、話し方にも工夫がされていた。

●SG コースの皆が時間をかけて準備してきたことがひしひしと伝わって、聞くときは背筋が伸びた。この1日で色んな分野のことを学ぶことができ、とても楽しかったし、探究論文の大きなヒントを得ることができて良かったと思う。

▲ステージでの発表ができるのは一部に限られているので、それを全校生徒ができるように取り組んでいくべきだと思った。

▲ポスターセッションの時間を増やして多くの発表を見たかった。

▲第2部のポスターセッションは他のブースの声で自分の聞きたい人の声が聞こえなかった。できるなら、場所を離してほしい。

▲アクシデントを起こさないようにより綿密にリハーサルを行ってほしいと思った。

▲ポスターを3つしか見れないのはもったいない。



～SG クラス（2年生）から後輩たちへのアドバイス～

○自信を持って発表すること！！

○中身の内容がしっかり詰まった発表をしないと、質問が来たときに答えられないし聞き手を満足させられない。論文はできたふりじゃなくて完璧に仕上げないとだめ。

○論文は主観ではなく先生や友人から客観的に見てもらうといい。

○まず「自分が研究したい」と思えるようなテーマにすること。そうしないと長続きしない。そのテーマを決めたとしても、ありふれた誰もが知っているというようなテーマだといずれ行き詰まってしまう。環境にしろ、科学にしろ、自分は「こう思う」というテーマを決めることが第1歩です。

○プレゼンテーションは練習をしておくべき。アンケートの有効活用を。

○学校での研究を通して大学選びにも影響してくる。やりやすい、やりにくいよりも自分がやりたいにこだわった方が良い。校外活動には積極的に参加するべき。グローバルな視点で、適切な課題設定か、提案性（オリジナルで一般論になっていないか）、自分が本気で研究したい分野か。

○自分の研究をこれ以上ないくらい理解する。質問をある程度予測することが必要。

○早めの準備が大切、最後にバタバタすると本当に大変です。テーマは自分が1年間飽きずにできるくらい興味があることにすべき。自分が面白いと思えない研究は他人が聞いても面白くないです。

○自分の研究を進めるにつれて愛着がわいてくるのでとりあえず頑張ってください。ディベートは本気で取り組んで下さい。

○常に客観的に自分の論文を見ていくことが大事だと思う。

○自分はできると信じること 支え合える関係づくり。

○視覚的に捉えやすいポスターを心がけよう。

○論文に書かないことでもたくさん知ってから自分の考えを形成していくのが大切。

○仮説はいくつも立てると方向性が決まってきた計画が進みやすい。

○研究には1人で向き合えなければいけません。誰かに頼ったり手を抜くと中身が薄くなります。行き詰まったら第三者の意見を取り入れてみましょう。

○テーマははじめにいくつか設定しておいて、しぼっていくと自分の興味をみつけやすいと思った。

○自分のブースにオリジナリティを出す、表現の仕方を工夫する、テーマで惹きつけ、お客さんを巻き込む感じのポスターセッションにする。

○論文作成の際、テーマをきめるのはなるべく早くきめることに越すことはないが、自分が持っている知識である程度取り組めるかどうかが大切だと思います。テーマで80%以上論文が決まっていると思います。①自分が追究できるテーマ②知識を多く持っている分野のテーマ ③着眼点がしっかりしているテーマ